

# 富岡地域づくり 協議会だより



第15号

平成30年7月15日

広報委員会

<http://www.town-tomioka.click/>

## 富岡地域づくり協議会総会が開催されました



平成30年5月26日（土）15時より富岡まちづくりセンターにて、富岡地域づくり協議会総会が開催されました。平成26年9月にこの組織が発足して以来5年目を迎えることとなります。

発足した際に、本広報誌第1号にて、その折りの総会の内容を4ページに亘りかなり細かに取り上げましたが、今号はそれ以来のこととなります。通過点のひとつといえはそれまでなのですが、5年目の節目をそれなりに意義あることと捉え、広報することといたしました。

最初に、渡辺多一会長より挨拶がありました。平成26年に本組織が発足して本年度が5年目にあたること。契機としては所沢市の要請で発足した組織だが、地域の皆様の理解と協力により広汎な事業が展開され、具体的な成果をあげていること。昨年、富岡地区体育祭が記念すべき60回を数えるにいたり、人文字でその偉業を祝したこと。本会発足の記念イベントであるウォークラリー大会が好評裏に実施されていること等のお話がありました。

続いて、鹿島輝雄副会長から本組織の概要説明がありました。基本的には、全国的な取り組みであり、既存の組織がそれぞれ個別に行っていた活動を、結集してより大きな組織として共通理解・共通行動のもと、より効率的な課題解決が図れるようにすること。地域の課題を共有し、課題解決を図るように組織を編成したり、担当を充てたりして仕組みを整えたりすること。等の説明がありました。

そして、本題の議題になりました。地域づくり協議会の本年度の活動方針として「課題を共有し、解決策を探り、ゆるやかな組織・事業・人材の融和を図る」が提示され、承認されました。ここに依拠した活動が、年間を通して実施されていくこととなります。

もとよりこの協議会を構成する27の各組織・団体の活動が基本であり、制約されるものではありません。むしろ、そうした、具体的でその組織・団体のもつ特殊性や特徴が活かされることが、地域づくり協議会の活動をより活性化させることにもなるものだと思います。お互いに補完・補充しあいながら更なる充実を目指していくことが求められます。

ところで、本協議会を構成する5つの部会では、意見を交換し合う場・研修の場・事業や行事等を検討する場等を設けています。こうした機会に多くの方の参加をお願いしたいと思います。尚、地域づくり協議会の活性化のためには、新たな、とりわけ若い人材の登用・確保も必要です。是非奮ってご参加いただきたいと思います。最後に、今までに増してのご理解とご協力をお願いして、報告といたします。

## 本広報誌の原稿を募集します

これまで地域づくり協議会広報委員会として、14号の広報誌を発行してきました。取り上げた内容は地域づくり協議会主催の主な行事、それも、参加者が多かったり、大々的な取り組みだったり等広く広報・伝聞・喧伝したいものでした。

特に地域づくり協議会発足に伴って立ち上げた記念行事であるウォークラリー大会については毎回一すなわち4回一取り上げてきました。これ以外の今まで取り上げた内容については、参加者等が変わった等により毎回取り上げたいのですが、そこはそれ、まちづくりセンターだより（公民館だより）に、毎回それらの予定やその活動の様子が掲載されていますので、そちらでご覧いただきたいと思います。

さて、それでは、この広報誌の方はといいますと、ここしばらくは、地域づくり協議会の部会及び各構成団体の活動・事業・企画等について主に報道していきたいと思えます。

つきましては、広報を希望する組織・団体から広く原稿を募集いたします。併せて、これに関連する写真（電子データ）もいただけますと幸いです。宜しくお願いします。

尚、発行回数や誌面に限度があることから、掲載の順番や取り上げる時期、ないしは、字数等については、広報委員会に一任いただけますようお願いいたします。



※追伸 広報誌の作成に興味のある方・イラストや写真等の特技をお持ちの方・原稿を書きたいと思われる方等々を広く募集したいと思います。奮ってご応募ください。

本誌に掲載の写真は、基本的に修正がなく、撮影したままのものが載ります。掲載を希望されない方は、予めその旨をご連絡ください。

※重要 これらの問い合わせ・確認・応募等については、まちづくりセンター事務局まで

### <編集後記>

夜空に輝く星々の美しさは古来より人間の知的好奇心を増幅し、夢を与えてきました。人々を魅了する天体や宇宙を研究する天文学は、歴史上最も早く生まれた学問といわれ現代でも注目を集めています。

このもと天文教育学者の縣秀彦氏にインタビューした記事を最近目にしました。その魅力と楽しみ方について熱く語っているのが印象的で、ここに取り上げることにしました。縣氏は長野県北安曇郡八坂村（現、大町市）に生まれ、その美しい星空に、そして宇宙に興味を持ったそうです。とりわけ、小学校3年生の時に「鳥追い」という行事に参加し夜中に雪原の上に輝く星々の美しさをみて感動したようです。折しもアポロ11号の月面着陸が世界的なニュースになり、メディアで様々な取り上げ方をされていたこともそれを助長したようです。

天文学には人の心を大らかにしてくれるという側面があります。氏自身も人生の岐路で思い悩んだときに雄大な星空を見上げては「まだ解明されていない宇宙の謎に比べたら、自分の悩みなどは小さなものだ」と気持ちを新たにされたことが度々あったそうです。そして、「自分たちは小さな地球に生きる仲間なのである」と意識することが平和につながると氏は信じて疑わないとのことでした。

今年はまさに天体の当たり年だそうです。①8月から10月にかけて15年ぶりの火星大接近②7月に今年2度目の皆既月食③8月から12月には流星群や彗星の出現④はやぶさ2号機が小惑星リュウオウに着陸予定。

縣氏の情熱や信条に共感できる人が大勢いるのではないかと思います。今年の天体ショーにも期待しながら、氏の今後ともの活躍を祈念したいと思います。